No.1100

昭和26（1951）年の民間航空再開一番機「もく星」と旅客。上は、10月26日に行われた《民間航空再開70周年記念遊覧飛行》の写真。

あれから70年

■70年前の昭和26(1951)年10月25日、日本の民間航空が再開し、翌26日に日本航空による千歳＝羽田線が就航しました。令和８年に迎える空港開港100年へのカウントダウンと民間航空再開70年の節目を記念して、千歳市・日本航空㈱千歳空港支店・㈱北海道エアシステムの共催による《民間航空再開70周年記念遊覧飛行》を10月26日に行いました。イベントには約1,000件の応募があり、抽選で選ばれた40組の市民が参加しました。当日は、航空自衛隊千歳基地の協力により、当時を再現するため、70年前に使用していた千歳飛行場の滑走路を使用しました。今回の体験を通して、当時の千歳の人たちが着陸場や空に夢を託した思いや、千歳市が空港とともに歩んできた歴史を振り返るとともに、先人が築いてきた財産を未来に引き継いでいくことを願っています。

千歳市空港政策課長
田中（たなか） 稔大（としひろ）

あのとき、あの場所

瞬きの点景。

SCENERY OF MOMENT

カメラが光を捉えるほんの一瞬。映り込む人物やものごと。千歳ならではの魅力が、残したくなる風景が、そこにある。

フォーカス

編集後記

■市民カレンダー11月号の写真撮影でサケのふるさと千歳水族館へ。子どもが小さい頃によく一緒に観察窓からサケを見ていたが、この日は前日の雨の影響なのか、これまでに見たことがない大量のサケの群れを見ることができた。仕事中に見ることができ、少し得した気分になった。

■《かぼちゃのランタン作り》を取材した際、自分でも作りたいと思い、その足でかぼちゃを買い、自宅で子どもと一緒に制作しました。キャンドルに火を灯すと不気味に光るかぼちゃのお化けに、子どもたちは大喜び。しばらくの間、子どもの前では、《ハロウィンかぼちゃアーティスト》を名乗ります。

10月27日／千歳霊園（都）で撮影

今月の表紙

紅葉から落葉をむかえるこの時期に、落ち葉の処理を行うシルバー人材センターのスタッフ。霊園の道路や駐車場に溜まった落ち葉を土に還すためブロワーで土手のほうに飛ばしている瞬間です。

広報ちとせ（第1100号）令和3年11月10日発行
■発行・編集／千歳市企画部広報広聴課
〒066-8686 千歳市東雲町2丁目 ☎(24)0104 FAX(22)8851
■市のホームページアドレス https://www.city.chitose.lg.jp/
■印刷／千歳印刷株式会社

■視覚に障がいのある方用の「音訳」「点訳」の広報もあります。詳しくは、☎(27)3921まで。